

【資料】

天皇・天皇制についての意識調査

上杉 喬

A Survey of Views on the Emperor and the Emperor System

Takashi Uesugi

はじめに

1988年9月19日の昭和天皇の吐血以来、新聞・テレビをはじめとするマスコミは、連日連夜、時々刻々、詳細な病状報道を繰り返して、ニュースの時間だけでなく、定期的な臨時ニュースやテロップなどで野球放送さえ中断するなど、われわれは、これに関心を持つ持たないにかかわらず、強制的にかつ一方的な報道にさらされた。宮内庁、政府、地方自治体は皇居前だけでなく「ご快癒」を祈るための記帳所を各地に設け、マスコミは皇居に向かって祈る人、記帳する人などを繰り返し報道し、国民総てが最大の関心事としているかの如く報道合戦を展開した。マスコミの天皇フィーバーは地方紙の記者が疲労から死亡するほどであった。この天皇の吐血に端を発する異常ともいえる行動はマスコミだけでなく、都内の大学では、大妻女子大や拓殖大をはじめ私大七校が大学祭を中止し、「市民まつり」など各地の祭りや行事なども自粛させられ、また、「まつり」でのバザー収入をあてにしていた福祉施設ばかりでなく、芸能界やイベント業界へも少なからぬ経済的影響を与えるほどであった。こうした中で、マスコミの異常報道への批判もではじめ、自粛ムードへの批判もなされ、政府・マスコミも天皇フィーバーのトーンを下げ始めるなども見られた。

1989年1月7日午前6時33分、昭和天皇の死去に伴い、政府・マスコミは、あらかじめのプログラムに従い、国民に弔意を表すように呼び掛け、テレビは1月7日及び1月8日の2日間、天皇関連の特別番組だけの番組編成とし、いわば壮大な報道実験（情報操作）を実施した。産業界の多くもこの動きに同調し、銀行をはじめ百貨店などでは黒ネクタイなどの喪章着用が行われ、商店会でも正月用の「派手な飾り」を自粛させられたりした。政府は憲法違反の疑いのある葬儀を実施し、マスコミは大々的にその様子を報道した。こうして、この4カ月の間、われわれは天皇に関するニュース・報道に取り囲まれ、何らかの形で天皇や天皇制について意識させられてきた。

本調査は、こういう状況の中で、文教大学人間科学部学生を対象とするパネル調査として、①1988年11月（1回目）、②1989年1月（2回目）の2回にわたり実施したものである。主な目的は、

- 1) 本来、民主主義社会において、マスコミは国民が興味・関心を持ち、知りたいと思っている事を中心に報道することが使命であり、ある偏向した内容ばかりを報道するものではない筈であるが、今回の報道は、そういう“知りたい要求”に基づいているものであったと言えるのか、

- 2) このマスコミの異常のフィーバーと世間の自粛の動きを学生達はどうか受け止めているのか、
- 3) こういう事態の中で、学生は天皇・天皇制についてどう考えているのか、
- 4) マスコミのこのような報道の洪水は学生の意識にどのような影響を与えたのか、をいくらかでも明らかにしようとするものである。

1. 調査方法

人間科学部学生（1年～3年）を対象に、協力を得られた人間科学部教員の担当する特定の授業の受講生に、質問紙法（自記式）によるパネル調査を、1988年11月と1989年1月の2回にわたって実施した。質問紙の配布・回収は原則として授業時間内としたが、第2回調査の一部（約50名）については授業終了後（当日）の回収箱への回収となった。

2. 調査時期

①第1回調査は、1988年9月19日の天皇吐血ニュースの約1ヶ月半後で、吐血直後からの病状に関する詳細な報道が連日連夜・時々刻々と行われて、自粛ムードも広がったが、一方次第にそれに対する批判も起こるようになり、新聞では一面扱いから他面に移ったりテレビの扱いもやや鎮静化を見せはじめた時期の1988年11月7日と11月9日に行われた。

②第2回調査は、1989年1月7日の天皇死去直後からはじまる2日間のテレビ・ラジオの特別編成番組、政府による新元号の制定を経て、政府決定による「大喪の礼」と「葬場殿の儀」の実施当日の1月24日をはさむ1989年1月23日と1月25日に行われた。

3. 被調査対象者（回答者）

①回答者は人間科学部学生（1年～4年）で表1に示されるものであった。第1回調査では、男100名、女182名、計282名で、第2回調査では、男66名、女165名、計231名であった。第1回調査と第2回調査の回答者の同定は、それぞれの調査時点で記入してもらった(a)誕生月日(ex. 10月18日)および、(b)氏名イニシャル(ex. TU)により、行っ

表1. 被調査対象者（回答者）数

	1年		2年		3年		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
第1回調査	35	69	46	84	19	29	100	182
第2回調査	30	75	22	68	14	22	66	165
1, 2回両方 (同定者)	19	50	20	59	8	18	47	127
少なくとも1回 在籍学生数	46	94	48	93	25	33	119	220
	66	108	64	112	87	85	217	305

たが、同定できた回答者は、男42名、女122名、計164名であった。第2回調査で「第1回調査にも回答」とした者は、計174名であったが、10名が同定できなかった。

②本調査の第1回および第2回の少なくともいずれかに回答した者は、1年生で140名、2年生で141名、3年生で58名、計339名であった。これは、人間科学部学生の、1年生では80.5%、2年生では80.1%、3年生では33.7%、計64.9%にあたり、少なくとも1年生・2年生の意見を代表するものと考えられるものである。

③また、本調査では、回答者の出身県や親の職業などの属性は調査していないが、学部学生全体では、出身県は東京20%、埼玉20%、千葉14%、神奈川4%など関東地区が72%を占め、北海道・東北8%、中部・北陸14%、関西・中国・四国5%、九州・沖1%であり、親の職業としては、自営業者（含、農業3.5%）が約20%、会社員が約45%、地方公務員が約15%、教員が約10%、その他約10%で、親の学歴は高校卒が大半を占め、会社員・地方公務員の親では管理職者は少ない。学部学生全体の学力水準は、入試ランキングとしては偏差値57～59で、全国的には中の上である。さらに、人間科学部学生は全体として政治・社会・経済に対する興味関心が薄く、自治会活動への参加率も低く、反面では個人的趣味のサークルやボランティア・サークルへの参加率が高いという特徴をもっている。

これらのことから、本調査の回答者は、政治意識的には、我が国の大多数を占める「ふ

つうの学生」の意識をかなり代表するものと考えられることができる。

4. 調査内容

【第1回調査】

1) マスコミの天皇の詳細な病状報道の必要性

- 天皇吐血のニュースに接しての態度
- 皇居前での拝礼報道に接しての態度
- 記帳所での記帳への態度
- 記帳の動機
- 天皇の哀悼番組の計画に対する態度

2) マスコミの天皇報道、世間の自粛ムードへの意識

- マスコミの病状報道への態度
- 世間一般の祭りや行事の自粛に対する態度
- 自分達（文教大学）の学園祭自粛に対する態度
- 自粛ムードの経済的影響に対する態度
- 天皇タブーの有無についての意識

3) 天皇・天皇制についての意識

- 天皇の地位についての意識
- 天皇の戦争責任についての態度
- 天皇の影響力についての意識
- 天皇制の在り方についての態度
- 年号についての態度

4) 天皇・皇太子・皇太孫のイメージ

- 天皇のイメージ
- 皇太子のイメージ
- 皇太孫のイメージ

【第2回調査】

1) マスコミの「昭和天皇の追悼特別番組」の必要性

- 昭和天皇死去のニュースに接しての態度
- 皇居前での弔問の報道に接しての態度
- 記帳所での記帳への態度
- 記帳の動機
- マスコミの2日間の特別番組に対する態度

2) マスコミの天皇報道、世間の自粛ムードへの意識

- マスコミの天皇報道への態度
- 2日間のテレビ・ラジオの視聴時間
- 世間一般の祭りや行事の自粛に対する態度
- 自粛ムードの経済的影響に対する態度
- 天皇タブーの有無についての意識

3) 天皇・天皇制についての意識

- 天皇の地位についての意識
- 天皇の戦争責任についての態度
- 天皇の影響力についての意識
- 天皇制の在り方についての態度
- 年号についての態度

4) 昭和天皇・新天皇・新皇太子のイメージ

- 昭和天皇のイメージ
- 新天皇のイメージ
- 新皇太子のイメージ

5. 調査結果 (表2. 第1回調査, 表3. 第2回調査)

1) 今回のマスコミ報道は“知りたい要求”に基づいているものであったか

われわれは家族や親類の者が重病であったり、親しい人や尊敬する人などが危篤と聞けば、一刻も早く詳細に病状を知りたいと思う。また、そうでなくても、その人の存在がわれわれの生活や社会にとって重大な影響を持つ場合にも、速やかで詳細な情報を得たいと思う。今回のマスコミの病状報道と天皇死去後の特別番組は、まさにそういう形と内容のものであった。

①これに対し、第1回調査の「1. 天皇が吐血されたというニュースに接した時、まずどのように感じましたか」に対して、“一大事だ早く回復して欲しい・かわいそう、早くなおって欲しいと思った”回答者は一握り(全体で8.4%)で、圧倒的多数は“あまり永くはないかもしれない・うーん、そうかと思ったがそれ以上は深く考えなかった”(83.7%)と自分とは関係のない他所事とし、関心をあまり持っていないことを示し、また、第2回調査の「1. 天皇がなくなったというニュースに接した時」に対しても、“強く動揺している自分に気がついた・おいたわしい事で、残念なことだと思った”はほんの一部(10.1%)で、“とうとう亡くなったのだなという感じ・やっときたかをまず感じた・これで自粛ムードが広められることだろう”など天皇の死去とその後の事態を社会的事実としてとらえる者が圧倒的(83.4%)であった。

②この傾向は、第1回調査の「2. 皇居前でのご快癒を願っての祈禱や拝礼」や第2回調査の「2. 皇居前に弔問者が続々とつめかけた」という報道にどう思ったか、についても同じで、“皇居に行ったり、行こうと思った”者は非常に少なく(第1回調査で5.6%, 第2回調査で15.7%), 多くは“抵抗を感じる・違和感を感じた”(第1・2回とも39.3%)とし、それに次いで“日本人にはいろいろな人がいると感心・とくになんとも思わな

かった”という傍観派や無関心派も多かった(37.4%, 38.4%)。

③そして「3. 皇居や各地の記帳所にいったか」では、“行った・行こうと思った”者は、第1回調査では6.4%, 第2回調査では増えて17.1%であるが、その「4. 一番の動機」は“記念になるから・やじ馬気分・好奇心・たまたま近くまで行ったから”とする者が大多数(66.7%, 48.9%)で、“ご回復・ご冥福を祈って”の方が少なかった(27.8%, 38.3%)。皇居などでの記帳の内容・実態がマスコミの意識的報道内容とかなり違うことが分かる。

以上から明らかなことは、第1回調査の「6. 天皇Xデーのときには、NHKをはじめ民放各社とも、2~3日の間、天皇に関する報道やドキュメントばかりになり、音楽番組や娯楽番組が中止になるといわれています。このような動きについて、あなたはどう思われますか」に対し、“当然である”と支持するものは僅か6.8%にすぎず、圧倒的多数(82.1%)は“やりすぎだ・必要ない”としていたことに見られるように、天皇の病気に端を発し死去に至って一段とエスカレートした今回のマスコミ報道は、国民の(少なくとも大学生の)“知りたい要求”とは掛け離れたものであったことである。

2) このマスコミの異常フィーバーと世間の自粛の動きを学生達はどう受け止めていたか

1) において、マスコミの異常フィーバーが“知りたい要求”に基づいたものではないこと、すなわち、意図的な情報操作であることは明らかであるが、学生達はこれらの動きをどう受け止めていたのであるか。

①まず、第1回調査でみると、「5. 天皇の病状報道をどう思うか」に対し、“天皇に関する報道だから当然”(10.6%)は少なく、“マスコミの報道は行き過ぎ、ニュースの時間で扱うぐらいでよい”(40.3%)が多く正常な感覚を見ることができ、一步踏み込んで“マスコミの報道は異常、裏になにかあ

る・戦前の天皇制にもどそうとする意図を感じる”(11.3%)とする者は少なく、“はじめの頃は行き過ぎ、最近の扱いぐらいなら良い”(29.3%)とマスコミに対して寛容な者がかなりにのぼっていることが、むしろ注目される。このことは、第2回調査でも同じで、「5. 2日間の特別番組を組んだマスコミの在り方」について、“天皇が亡くなったのだから、当然である”(7.9%)は少なく、“哀悼の意を表する番組も必要だが、やりすぎだ”(42.1%)が多いこと、しかし、“ニュースで扱えばよい、特別番組は必要ない”とするものも少なく、“すこしやりすぎだが、非難するほどでもない”(27.2%)とマスコミを認める者がかなりにのぼった。これらの結果は、学生達がマスコミに対してかなり寛容であり、マスコミを批判的にとらえるに弱く、異常な報道の裏を見ることができないことを示している。

②次に、「7. 日本の各地でのお祭りや行事の自粛について」では、“自粛するのが当然”(第1回調査0.4%, 第2回調査2.6%, 以下同様)はほとんどいない。多くの者は、“お気の毒であるが、行事や祭りにはそれぞれ理由も意義もあるのだから、自粛云々はおかしい”(59.4%, 52.0%)としており、さらに“天皇の病気(死去)と、われわれ国民の行事や祭りは、もともと直接関係ないのだから、自粛云々もおかしい”(22.3%, 15.7%)と天皇と国民生活との無関係を強調する者もかなりいた。あわせて“自粛云々おかしい”(81.7%, 67.7%)が大多数を占め、学生が自粛ムードに批判的であることが分かる。この天皇の病気および死去を理由とする自粛の押し付け(自粛ムードの広がり)は、戦前のように天皇が国民の家長であることを承認せよという要求であり、天皇が家長であれば自粛は当然であるという論理であるが、大多数の学生達が“天皇の病気や死去と国民の行事や祭りが別である”としたことは、論理的には天皇が戦前のように国民の家長となることを拒否したことになる。しかし、“自粛が

当然”とする者はほとんどいないにしても、“いき過ぎた自粛は問題だが、祭りや行事を派手にやるのもおかしい”(13.4%, 24.5%)として、天皇と国民との関係を戦前に戻そうとする働き掛け(自粛ムード)に対して、無防備な学生もかなりいた。

③この祭りや行事の自粛に関し、第1回調査では調査の数日後にせまった自分達(文教大学)の学園祭(11月11日~13日)について「8. 現在、大学の学園祭を中止したところが太妻女子大や拓殖大をはじめ、私学七校に上っています。文教大学ではどうしたら良いと思うか」と訊ねた。結果は、“学園祭は自粛し中止すべきだ”は1名(0.4%)だけで、圧倒的多数が“現状なら、予定通り実施”(96.5%)であった。これを前問の「7. 日本の各地での自粛」と比べると、そこでは“祭りや行事を派手にやるのもおかしい”(13.4%)とした学生も自分達の学園祭では“現状なら、予定通り実施”とし、また「7. 日本の各地での自粛」では“天皇の病気と国民の行事や祭りは無関係”は23.3%であったのに対し、「8. 文教大学の学園祭の自粛」になると“天皇の病気と学園祭とは無関係”が45.6%となった。学生達は自分達の学園祭では“天皇の病気とは無関係”“予定通り実施”として自粛反対となるが、自分達に直接関係のない日本の各地のことになると自粛を許容するようになる。学生達の意見が論理的整合性よりも実利的・自分本位であることが窺われる。

④さらに、これが自分達とは直接関係のない(と思っている)「9. 自粛(服喪)ムードによる経済的影響」になると、学生達の自粛(服喪)ムードに対する寛容さ・無防備はより一層目立つようになる。すなわち、“とんでもないことだ”(24.5%, 42.9%)とする者が少数になり、逆に“困ったことだが、やむを得ない”(53.0%, 35.4%), “皆で我慢しなければならぬ”(12.8%, 1.8%), “自分とは直接には関係ない”(9.6%, 15.9%)を合わせ許容的なものが多数(75.4%, 52.9%)を占めるようになる。

⑤ところで、この、昭和天皇の病気と死去を理由とするマスコミの異常報道や世間一般に広められた自粛ムードは、天皇批判は許されず天皇を特別な存在として冒してはならないものであるという雰囲気を作り出すもので、国民の間での天皇タブーを強めるものであったと言える。「10. 天皇タブーが今の日本にあると思いますか」に対する学生の回答は、“非常にあると思う”（第1回調査18.7%、第2回調査21.6%）もかなりいるが、多数は“いくらかあると思う”（47.1%、49.3%）とするもので、“わからない”（82.7%、19.4%）もかなりの数に上った。今回ほど明白なマスコミの意図的な報道を経験しても、多くの学生は“いくらかある”や“わからない”（69.8%、68.7%）のままで、その意図に鈍感で無防備なままだということが分かる。

3) こういう事態のなかで、学生は天皇・天皇制についてどう考えているのか

①まず、「11. 天皇の地位」であるが、大多数は“元首ではない”（72.9%、75.1%）とし、“元首である”（10.7%、9.7%）はわずかであったが、“わからない”（16.4%、15.3%）がかなりいることに注目させられる。

②つぎに、「12. 天皇の戦争責任」については、積極的に“戦争責任はない”（1.1%、2.2%）とする者はごく僅かであるが、明確に“戦争責任はある”（23.6%、25.0%）とする者も少数であった。最多数は“日本人全体に責任、天皇ばかりを責められない”（37.1%、37.7%）で、これを含め“天皇はむしろ犠牲者”（11.1%、12.3%）や“いま問題にすべきではない”（13.6%、10.5%）など、天皇の戦争責任をあいまいにし免罪する意見（51.8%、50.4%）が過半数を占めた。学生達の中に政府・マスコミの意図が見事に浸透していることが窺われる。

③また、「13. 天皇が国の政治や経済にどんな力を持っていると思うか」では、最多数は“現在、影響力はないが、利用しようとするものがいれば、大きな影響力を持つ”（38.0%、43.0%）で、天皇が政治的に利用

される可能性を感じている者の多いことが分かる。しかし、そのような可能性には無頓着に“ほとんど何の力も影響力も持っていない”

（30.8%、27.2%）とする無防備で鈍感な者もかなりいることも示されている。また反対にすでに“政治や経済にかなりの影響力・政治にはそれなりの影響力を持っている”（22.4%、21.5%）のように天皇の影響力について誤解ないし誤認している学生も少なくなかった。

④「14. 天皇制のあり方として、今後どうある方がよいと思うか」では、“現在よりも、もっと権威のあるものにする”（0.0%、0.4%）はほぼ0で、戦前に近い天皇制を支持するものはいない。また、反対に“天皇制は廃止した方がよい”（16.1%、11.9%）とする者も少数ではあるが、現状を肯定する“現在ぐらいの政治的な影響力と権威がよい”

（26.4%、28.6%）とする者も多数ではない。全体として学生達の多数意見は、象徴天皇はそのままにして、“憲法を厳密に守る”ないし“形式的な象徴として国事行為をもっと限定”（あわせて、45.0%、47.1%）ということであり、天皇制廃止を含めれば天皇の影響力をできるだけ限定ないし制限するべきと考えている者（あわせて、61.1%、59.0%）が過半数を超えることが分かる。

⑤今回、天皇の死去に伴う新年号の制定にあたって政府がそれを一大儀式とし、マスコミが大々的に報道したことに見られるように、天皇および天皇制の問題と年号制とは一体のものである。しかし、「15. 年号は、これからもあった方がよいか」に対する学生の反応は、前問で天皇の影響力の拡大を好まないという傾向とはかなりの違いを見せていた。すなわち、“廃止（8.5%、10.5%）と“公文書に義務づけるのは反対”（10.3%、11.8%）を合わせても年号制に批判的な者（18.8%、22.3%）は少数で、積極的に“あった方がよい”（38.9%、38.0%）の方が多数であった。天皇制問題に関する学生の寛容さ・無防備なことがここでも示されている。

表2. 天皇に関するアンケート結果 (88. 11実施)

Q I. 天皇をめぐるマスコミの異常フィーバーに根拠はあるか			
	全体 [人数]	男	女
【1. 天皇の吐血のニュースに接してまず思ったこと】	%	%	%
1. これは大変、一大事だ、早く回復して欲しい。	4.2	3.0	4.9
2. かわいそう、早くなおって欲しい。	4.2	2.0	5.5
3. お年だから、あまり永くはないかもしれない。	68.9	62.0	72.7
4. うーん、そうかと思ったが、より深くは考えなかった。	14.8	22.0	10.9
5. その他	7.8	11.0	6.0
【2. その後の皇居前での祈禱や拝礼の報道を見て】			
1. 自分も皇居に行って、ご回復を祈った。	1.1	1.0	1.1
2. 皇居でご回復を祈ろうかと思ったが、行ってない。	4.2	2.0	5.5
3. ご回復をねがう気持ちは自分も同じだが、皇居に向かって祈るのは抵抗を感じる。	17.0	8.0	21.9
4. 写真などで知る戦前を見るようで、違和感を感じた。	22.3	23.0	21.9
5. 日本人ではいろいろな人がいるものだ、感心した。	30.7	34.0	29.0
6. とくになんとも思わなかった。	6.7	11.0	4.4
7. その他	18.0	21.0	16.4
【3. 皇居をはじめ各地の記帳所に記帳に行きましたか】			
1. 行った。	3.9	4.0	3.8
2. これから行こうと思っている。	2.5	0.0	3.8
3. 行ってない、多分これからも行かない。	42.4	34.0	47.0
4. 行こうと思わない。	51.2	62.0	45.4
【4. 記帳に行った(行こうと思っている)一番の動機は】			
1. ご病気の回復を心から願って。	11.1	0.0	14.3
2. だれでも病気の人はかわいそうだから。	16.7	25.0	14.3
3. 人生に一度のできごとで記念になるから。	38.9	25.0	42.9
4. なんとなく、やじ馬気分のつよいほうだから。	5.6	0.0	7.1
5. たまたま近くまで行ったから。	22.2	25.0	21.4
6. その他	5.6	25.0	0.0
Q II. 学生はこの異常フィーバーをどう受け止めているか			
【5. マスコミの連日の天皇の病状報道】			
1. 天皇に関する報道だから当然である。	10.6	8.0	12.0
2. はじめの頃は行き過ぎ、最近の扱いぐらいなら良い。	29.3	18.0	35.5
3. マスコミの報道は行き過ぎ、ニュースの時間位でよい。	40.3	44.0	38.3
4. マスコミの報道は異常、裏に何かあるようだ。	6.7	9.0	5.5
5. 戦前の天皇制にもどそうとする意図を感じる。	4.6	7.0	3.3
6. その他	8.5	14.0	5.5

	全体	男	女
【6. 天皇Xデーのときに哀悼番組の計画について】	%	%	%
1. 当然である。	6.8	3.1	8.8
2. 哀悼の意を表する番組も必要だが、やりすぎだ。	66.7	58.2	71.3
3. ニュースで扱えばよい、特別番組は必要ない。	15.4	20.4	12.7
4. その他	11.1	18.4	7.2
【7. お祭りや行事の自粛について】			
1. 自粛するのが当然である。	0.4	1.0	0.0
2. いき過ぎた自粛は問題だが、祭りや行事を派手にやるのもおかしい、ほどほどが良い。	13.4	10.0	15.3
3. 天皇のご病気はお気の毒であるが、行事や祭りにはそれぞれ理由も意義もあるのだから、自粛云々はおかしい。	59.4	53.0	62.8
4. 天皇の病気と、われわれ国民の行事や祭りは、もともと直接関係ないのだから、自粛云々もおかしい。	22.3	30.0	18.0
5. その他	4.6	6.0	3.8
【8. 文科大学の学園祭はどうしたら良いか】			
1. 学園祭は自粛し、中止すべきだ。	0.4	1.0	0.0
2. 天皇が万一の時には自粛し中止すべきだ。	21.2	18.0	23.0
3. 万一の場合には、大騒ぎは自粛して、整然と実施。	20.5	14.0	24.0
4. 天皇の病気と学園祭とは無関係、予定通り実施すべき。	45.6	51.0	42.6
5. 世間の自粛ムードを打ち破るためにも、予定通り実施。	9.2	11.0	8.2
6. その他	3.2	5.0	2.2
【9. 自粛ムードによる、経済的影響】			
1. ご病気のだから、皆で我慢しなければならない。	12.8	7.0	0.0
2. 困ったことだが、やむを得ない。	53.0	50.0	16.0
3. とんでもない、政府は何等かの手を打つべきである。	16.7	21.0	54.7
4. とんでもないことだ、こういう悪習を破るために、自分も含め、なにかしなければならぬ、と思う。	7.8	9.0	14.4
5. 自分とは直接には関係のないことだと思う。	9.6	13.0	7.2
【10. 天皇Xデーは今の日本にあるか】			
1. 非常にあると思う。	18.7	27.0	14.0
2. いくらかあると思う。	47.1	47.0	47.2
3. ほとんどないと思う。	10.8	7.0	12.9
4. 全くないと思う。	0.7	0.0	1.1
5. わからない。	22.7	19.0	24.7

Q III. 天皇・天皇制についての学生の意識

	全体	男	女
【11. 天皇の地位】	%	%	%
1. 天皇は日本国の元首である。	0.7	1.0	0.6
2. 日本国民統合の象徴だから、実質的に元首に同じ。	8.2	6.0	9.4
3. 天皇の国事行為には、外国の元首（大統領）が行うことが多く含まれ、実質的に元首に同じ。	1.8	4.0	0.6
4. 天皇は国政に関する権能を持たず元首ではない。	37.0	43.0	33.7
5. 天皇が行う国事行為はすべて内閣の助言と承認により、為されるのだから、外国の元首（大統領）とは違う。	35.9	34.0	37.0
6. わからない。	16.4	12.0	18.8
【12. 天皇の戦争責任】			
1. 悪いのは、軍部の好戦派、天皇はむしろ犠牲者。	11.1	12.0	10.6
2. 天皇はむしろ平和主義者であり、戦争責任はない。	1.1	0.0	1.7
3. 日本人全体に責任、天皇ばかりを責められない。	37.1	28.0	42.2
4. 天皇にも戦争責任はあるが、いま問題にすべきではない。	13.6	13.0	13.9
5. 当然、戦争責任はある。	23.6	37.0	16.1
6. わからない。	6.1	3.0	7.8
7. その他	7.5	7.0	7.8
【13. 天皇の、国の政治や経済への影響力】			
1. ほとんど何の力も影響力も持っていない。	30.8	26.0	33.5
2. 影の存在として、政治・経済にかなりの影響力。	10.4	13.0	8.9
3. 経済にはないが、政治にはそれなりの影響力。	10.0	10.0	10.1
4. 利用しようとするものがいれば、大きな影響力を持つ。	38.0	40.0	36.9
5. わからない。	7.5	7.0	7.8
6. その他	3.2	4.0	2.8
【14. 今後の天皇制の在り方】			
1. 天皇を現在よりも、もっと権威あるものにする。	0.0	0.0	0.0
2. 現在ぐらいの政治的な影響力と権威がよい。	26.4	17.0	31.7
3. 憲法で決めている象徴天皇の立場と地位を厳密に守る。	24.6	24.0	25.0
4. 形式的な象徴として、国事行為ももっと限定がよい。	20.4	26.0	17.2
5. 天皇制は廃止した方がよい。	16.1	22.0	12.8
6. わからない。	12.5	11.0	13.3
【15. 年号は、これからもあった方がよいか】			
1. あったほうがよい。	38.3	30.0	42.9
2. あってもよいが、べつになくてもよい。	36.9	39.0	35.7
3. あってもよいが、公文書に義務づけるのは反対。	10.3	8.0	11.5
4. 西暦があればよいので、廃止した方がよい。	8.5	15.0	4.9
5. わからない。	3.2	2.0	3.8
6. その他	2.8	6.0	1.1

Q IV. 天皇・皇太子・皇太孫についてのイメージ

	全体	男	女
【16. 天皇のイメージ（複数選択）】	%	%	%
1. 敬愛を感じている。	7.5	7.0	7.7
2. 親しみを感じている。	14.7	8.0	17.7
3. かわいいおじいさん、という感じがつよい。	28.0	0	33.7
4. あこがれを感じている。	0.0	0.0	0.0
5. 無関心、無関係である。	26.0	32.0	22.7
6. あまり良い感じではない。	12.5	21.0	7.7
7. きらいだ。	7.5	13.0	4.4
8. こわい感じがする。	0.7	2.0	0.0
9. かわいそうな人という感じがする。	56.2	57.0	55.8
10. その他	17.1	17.0	17.1
【17. 皇太子のイメージ（複数選択）】			
1. 敬愛を感じている。	3.9	3.0	4.4
2. 親しみを感じている。	11.4	7.1	13.8
3. かわいいおじいさん、という感じがつよい。	11.4	7.1	13.8
4. あこがれを感じている。	0.0	0.0	0.0
5. 無関心、無関係である。	47.9	45.5	49.2
6. あまり良い感じではない。	18.2	23.2	15.5
7. きらいだ。	5.7	11.1	2.8
8. こわい感じがする。	0.0	0.0	0.0
9. かわいそうな人という感じがする。	47.1	49.5	45.9
10. その他	20.7	23.2	19.3
【18. 皇太孫、浩宮のイメージ（複数選択）】			
1. 敬愛を感じている。	4.3	5.1	3.9
2. 親しみを感じている。	13.6	14.1	13.3
3. かわいい人、という感じがつよい。	3.6	2.0	4.4
4. あこがれを感じている。	1.4	2.0	1.1
5. 無関心、無関係である。	45.7	44.4	46.4
6. あまり良い感じではない。	21.4	18.2	23.2
7. きらいだ。	12.5	15.2	11.0
8. こわい感じがする。	0.4	0.0	0.6
9. かわいそうな人という感じがする。	36.1	39.4	34.3
10. その他	25.0	28.3	23.2

表3. 天皇に関するアンケート結果 (89. 1実施)

Q I. 天皇をめぐるマスコミの異常フィーバーに根拠は			
	全体 (人数)	男	女
【1. 昭和天皇死去のニュースに、まず思ったこと】	%	%	%
1. 強く動揺	5.7	4.7	6.1
2. おいたわしい、残念なことだと思った.	4.4	0.0	6.1
3. それなりに緊張感、とうとう亡くなったという感じ.	40.6	32.8	43.6
4. やっときたか、ということをまず感じた.	34.5	42.2	31.5
5. マスコミや世間が大騒ぎし、自粛ムードが広められた.	8.3	9.4	7.9
6. その他	6.6	10.9	4.8
【2. その後の皇居前での弔問の報道を見て】			
1. 自分も皇居に行って、ご冥福を祈った.	3.9	3.1	4.2
2. 皇居でご冥福を祈ろうかと思ったが、行ってない.	11.8	12.5	11.5
3. ご冥福を祈る気持ちは自分も同じだが、皇居に向かって祈り、記帳するのは抵抗を感じる.	28.8	28.1	29.1
4. 写真などに見る戦前を見るようで、違和感を感じた.	10.5	14.1	9.1
5. 日本人にはいろいろな人がいるものだと、感心した.	24.0	21.9	24.8
6. とくになんとも思わなかった.	14.4	12.5	15.2
7. その他	6.6	7.9	6.1
【3. 皇居をはじめ各地の記帳所に行きましたか】			
1. 皇居(または記帳所)に記帳に行った.	4.8	3.1	5.5
2. 皇居に行ったが、記帳はしなかった.	1.3	1.6	1.2
3. 記帳に行こうと思ったが、行けなかった.	11.0	10.9	11.0
4. 記帳は別で、皇居にと思ったが、行けなかった.	3.9	6.3	3.0
5. 行ってない、そういうことに興味がない.	68.4	62.5	70.7
6. 行こうと思わない、そういうことには反対である.	10.5	15.6	8.5
【4. 皇居や記帳に行った(行こうと思った)一番の動機】			
1. ご冥福を心から願って.	38.3	30.8	41.2
2. 多くの人が行くから自分も思って.	2.1	0.0	2.9
3. 人生に一度のできごとで記念になるから.	21.3	15.4	23.5
4. どちらかというと、好奇心、興味関心から.	17.0	38.5	8.8
5. たまたま近くまで行ったから.	8.5	7.7	8.8
6. その他	12.8	7.7	14.7
Q II. 学生はこの異常フィーバーをどう受け止めているか			
【5. この2日間のマスコミ特別番組の在り方について】			
1. 天皇が亡くなったのだから当然である.	7.9	9.4	7.3
2. すこしやりすぎだが、非難するほどでもない.	27.2	23.4	28.7
3. 哀悼の意を表する番組も必要だが、やりすぎだ.	42.1	35.9	44.5
4. ニュースで扱えばよい、特別番組は必要ない.	12.3	15.6	11.0
5. その他	10.5	15.6	8.5

	全体	男	女
【6. 「今回のマスコミの動きは戦前の天皇制にもどうとうする動きにつながる」という意見について】	%	%	%
1. 天皇は特別な存在なのだから当然である.	1.7	3.1	1.2
2. 象徴天皇だから特別番組なので、心配の必要はない.	21.4	17.2	23.0
3. あまり過敏にならなくても良い.	46.7	42.2	48.5
4. 裏になにかあるような気もするがよく分からない.	15.7	17.2	15.2
5. 戦前の天皇制にもどうとうする動きにつながるかも.	10.9	12.5	10.3
6. その他	3.5	7.8	1.8
【7. どの位TV・ラジオの番組を視聴したか】			
1. ほとんどずっと or 1月8日深夜までの大半.	3.1	3.1	3.0
2. いつもよりは、かなり長時間視聴した.	13.5	14.1	13.3
3. 1月7日はかなり、8日あまり視聴せず.	17.5	9.4	20.6
4. いくつかの番組を選んで視聴した.	11.4	17.2	9.1
5. はじめは視聴、あとは視聴するのをやめた.	28.8	32.8	27.3
6. この2日間は、ほとんど視聴しなかった.	19.2	20.3	18.8
【8. お祭りや行事の自粛について】			
1. 自粛するのが当然である.	2.6	4.7	1.8
2. いき過ぎた自粛は問題だが、派手にやるのはおかしい、何等かの哀悼の意を示すべきである.	24.5	17.2	27.3
3. 天皇の死去はお気の毒であるが、各種行事はそれぞれ理由も意義もあるのだから、自粛云々はおかしい.	52.0	46.9	53.9
4. 天皇の死去と、われわれ国民の各種行事は、もともと直接関係ないのだから、自粛云々はすじが違ふ.	15.7	25.0	12.1
5. その他	5.2	6.3	4.8
【9. 全国的な服喪ムードによる経済的影響】			
1. 天皇が亡くなったのだから、皆で我慢すべきだ.	1.8	4.8	0.6
2. 困ったことだが、やむを得ない.	35.4	28.6	38.0
3. とんでもない、政府は何等かの手を打つべきである.	31.0	34.9	29.4
4. とんでもないことだ、こういう悪習を破るために、自分も含め、なにかしなければならぬ、思う.	11.9	17.5	9.8
5. 自分とは直接には関係のないことだと思う.	15.9	11.1	17.8
6. その他	4.0	3.2	4.3
【10. 天皇タブーが今の日本にあるか】			
1. 非常にあると思う.	21.6	31.7	17.7
2. いくらかあると思う.	49.3	36.5	54.3
3. ほとんどないと思う.	9.7	11.1	9.1
4. 全くないと思う.	0.0	0.0	0.0
5. わからない.	19.4	20.6	18.9

QⅢ. 天皇・天皇制についての学生の意識

	全体	男	女
【11. 天皇の地位】	%	%	%
1. 天皇は日本国の元首である。	0.9	1.6	0.6
2. 日本国民統合の象徴だから、実質的に元首に同じ。	4.4	4.7	4.2
3. 天皇が行う国事行為には、外国の元首（大統領）が行うことが多く含まれ、実質的に元首に同じ。	4.4	6.3	3.6
4. 天皇は国政に関する機能を持たず元首ではない。	38.0	42.2	36.4
5. 天皇が行う国事行為はすべて内閣の助言と承認により、為されるのだから、外国の元首（大統領）とは違う。	37.1	32.8	38.8
6. わからない。	15.3	12.5	16.4
【12. 天皇の戦争責任】			
1. 悪いのは、軍部の好戦派、天皇はむしろ犠牲者。	12.3	11.1	12.7
2. 天皇はむしろ平和主義者であり、戦争責任はない。	2.2	3.2	1.8
3. 日本人全体に責任、天皇ばかりを責められない。	37.7	28.6	41.2
4. 天皇にも戦争責任はあるが、いま問題にすべきではない。	10.5	9.5	10.9
5. 当然、戦争責任はある。	25.0	28.6	23.6
6. わからない。	7.0	11.1	5.5
7. その他	5.3	7.9	4.2
【13. 天皇の、国の政治や経済への影響力】			
1. ほとんど何の力も影響力も持っていない。	27.2	28.6	26.7
2. 影の存在として、政治・経済にかなりの影響力。	10.1	15.9	7.9
3. 経済にはないが、政治にはそれなりの影響力。	11.4	7.9	12.7
4. 利用しようとするものがいれば、大きな影響力を持つ。	43.0	44.4	42.4
5. わからない。	7.9	3.2	9.7
6. その他	0.4	0.0	0.6
【14. 今後の天皇制の在り方】			
1. 天皇を現在よりも、もっと権威あるものにする。	0.4	1.6	0.0
2. 現在ぐらいの政治的な影響力と権威がよい。	28.6	23.8	30.5
3. 憲法で決めている象徴天皇の立場と地位を厳密に守る。	33.9	25.4	37.2
4. 形式的な象徴として、国事行為ももっと限定がよい。	13.2	19.0	11.0
5. 天皇制は廃止した方がよい。	11.9	19.0	9.1
6. わからない。	11.9	11.1	12.2
【15. 年号は、あった方がよいか】			
1. あった方がよい。	38.0	26.6	42.4
2. あってもよいが、べつになくてもよい。	37.1	35.9	37.6
3. あってもよいが、公文書に義務づけるのは反対。	11.8	9.4	12.7
4. 西暦があればよいので、廃止した方がよい。	10.5	26.6	4.2
5. わからない。	2.2	0.0	3.0
6. その他	0.4	1.6	0.0

QⅣ. 天皇・皇太子・皇太孫についてのイメージ

	全体	男	女
【16. 天皇のイメージ】	%	%	%
1. 敬愛を感じている。	14.5	15.6	14.0
2. 親しみを感じている。	27.6	28.1	27.4
3. かわいいおじさん、という感じがつよい。	29.4	18.8	33.5
4. あこがれを感じている。	1.3	3.1	0.6
5. 無関心、無関係である。	18.0	26.6	14.6
6. あまり良い感じではない。	5.3	3.1	6.1
7. きらいだ。	3.5	6.3	2.4
8. こわい感じがする。	0.0	0.0	0.0
9. かわいそうな人という感じがする。	58.3	51.6	61.0
10. その他	10.5	10.9	10.4
【17. 新天皇のイメージ】			
1. 敬愛を感じている。	6.1	6.3	6.1
2. 親しみを感じている。	21.9	14.1	25.0
3. かわいいおじさん、という感じがつよい。	9.2	7.8	9.8
4. あこがれを感じている。	0.4	1.6	0.0
5. 無関心、無関係である。	33.8	40.6	31.1
6. あまり良い感じではない。	8.3	10.9	7.3
7. きらいだ。	3.5	7.8	1.8
8. こわい感じがする。	0.0	0.0	0.0
9. かわいそうな人という感じがする。	27.6	28.1	27.4
10. その他	12.3	14.1	11.6
【18. 新皇太子、浩宮のイメージ】			
1. 敬愛を感じている。	3.1	4.7	2.4
2. 親しみを感じている。	18.3	12.5	20.6
3. かわいい人、という感じがつよい。	2.2	3.1	1.8
4. あこがれを感じている。	1.3	1.6	1.2
5. 無関心、無関係である。	36.2	39.1	35.2
6. あまり良い感じではない。	18.8	25.0	16.4
7. きらいだ。	10.0	15.6	7.9
8. こわい感じがする。	0.4	0.0	0.6
9. かわいそうな人という感じがする。	20.5	28.1	17.6
10. その他	8.7	7.8	9.1

4) 昭和天皇, 現天皇, 現皇太子のイメージ

本調査では, 昭和天皇のイメージに加え, 後継者である現天皇と現皇太子のイメージをも合わせ調査した。ここで扱うイメージは基本的に「好ましき」ないし「プラス vs. マイナス感情」を軸とする感情イメージであった。調査した9のイメージは, 回答のパターンから, (a)プラス感情(敬愛, 親しみ, かわいい, あこがれ), (b)マイナス感情(無関心・無関係, 良い感じでない, きらい, こわい), および (c)プラス・マイナス不明(かわいそうな人)に分けられる。回答は重複選択式であった。

①昭和天皇のイメージでは, “かわいそうな人”(56.2%, 58.3%)が最も多く過半数を占めていた。プラスの感情イメージを抱いている人は第1回調査で47.7%, 第2回調査では72.8%, 反対にマイナスの感情イメージを抱いている人は第1回調査で46.7%, 第2回調査で26.8%であった。昭和天皇のイメージは第1回調査から第2回調査の間に大きくプラスの方向に変化し, 学生の大多数が「好ましい」とするイメージを抱くようになったことが分かる。

②現天皇のイメージでは, 最多数は“無関心・無関係”(47.9%, 33.8%)で, “かわいそうな人”(47.1%, 27.6%)が2位を占めた。プラスの感情イメージを抱いている人(26.7%, 37.6%)の方が少数派で, マイナス感情を抱いている人(71.8%, 49.9%)の方が多数であったが, 第1回調査から第2回調査の間にマイナス感情の有意な減少とプラス感情の有意な増加が見られている。

③現皇太子のイメージは, 現天皇と同様に, 最多数は“無関心・無関係”(45.7%, 36.2%)で, “かわいそうな人”(36.1%, 20.5%)がそれに続いて比較的多かった。また, プラス感情を抱いている人(22.9%, 24.9%)の方が少なく, マイナス感情を抱いている人(80.0%, 65.4%)が絶対多数であり, 第1回から第2回調査の間にマイナス感情の若干の減少が見られるがその変化は有意といえるものではなかった。

④昭和天皇, 現天皇および現皇太子のイメージを比較して特徴的なのは, この順でプラスの感情イメージを抱く者が多く, マイナスの感情イメージはその逆になっていることである。特にプラスの感情イメージとしては昭和天皇に“かわいい”(26.0%, 29.4%)というイメージを抱くものが相対的に多いのに対して, 現天皇(11.4%, 9.2%)や現皇太子(3.6%, 2.2%)では少なく, 昭和天皇のプラス・イメージが「年寄りの, 無邪気で, かわいいおじいさん」という感覚的なところにあることがわかる。また三者に共通していえることは, “あこがれ”のイメージを持つものがほとんど0であることだが, これは象徴天皇が「国民のあこがれのようなものである」とする憲法制定の趣旨との違いを見せている。しかし, 同時に“こわい”とするイメージを持つものも0であり, “利用する者がいれば大きな影響力を持つ”(38.0%, 43.0%)という認識とイメージとのズレは大きい。

5) マスコミの洪水のような情報(情報操作)

は学生の意識にどういった影響をあたえたか

①表4は, 2回の調査において, 「昭和天皇, 現天皇, 現皇太子のイメージ」を除いた, 同一内容の調査項目10について, 第1回と第2回調査との同定ができた回答者164名の結果である。全体として, 第1回と第2回調査に大きな変化のある項目は少なく, 回答内容から肯定・否定・中間に3分類した回答肢3×調査時点2のカイ二乗検定で5%水準で有意なものは, 「2. 皇居前での祈禱や拝礼」($P < 0.025$), 「7. お祭りや行事の自粛」($P < 0.025$) および 「9. 自粛(服喪)ムードによる経済的影響」($P < 0.005$)の3項目だけであった。特に, 政府やマスコミの情報操作が焦点を当てていると見ることでできる「11. 天皇の地位」, 「天皇の戦争責任」, 「14. 今後の天皇制の在り方」そして「15. 年号は, あったほうがよいか」に関しては, 肯定・否定意見の変化はあまり見られなかった。有意な変化の見られた3項目では, いずれも肯定回答が増え否定回答が減るといっても

表4. 第1回調査と第2回調査の比較(%)

N=164

	分類	'88.11	'89.1
【2. その後の皇居前での祈禱や拝礼の報道を見て】			
1. 自分も皇居に行って、祈った。	肯定	0.6	4.3
2. 皇居で祈ろうかと思ったが、行ってない。	肯定	4.3	11.6
3. ご回復(冥福)をねがう気持ちは自分も同じだが、皇居に向かっ て祈るのは抵抗を感じる。	否定	18.9	29.9
4. 写真などで知る戦前を見るようで、違和感を感じた。	否定	25.0	10.4
5. 日本人にはいろいろな人がいるものだと、感心した。	中間	31.1	25.0
6. とくになんとも思わなかった。	中間	4.3	11.6
7. その他	中間	15.9	7.3
【6. 天皇死去の哀悼番組について】			
1. 当然である。	肯定	6.7	7.3
2. すこしやりすぎだが、非難するほどでもない。	中間	-	28.0
3. 哀悼の意を表する番組も必要だが、やりすぎだ。	中間	68.7	42.7
4. ニュースで扱えばよい、特別番組は必要ない。	否定	14.1	12.8
5. その他	否定	10.4	9.1
【7. お祭りや行事の自粛について】			
1. 自粛するのが当然である。	肯定	0.6	1.8
2. いき過ぎた自粛は問題だが、祭りや行事を派手にやるのもおかしい。ほどほどが良い。	中間	12.8	23.8
3. 天皇の病氣(死去)はお気の毒だが、行事や祭りにはそれぞれ理由も意義もあるのだから、自粛云々はおかしい。	否定	59.8	53.7
4. 天皇の病氣(死去)と、国民の行事や祭りは、もともと直接関係ないのだから、自粛云々もおかしい。	否定	21.3	15.2
5. その他	否定	5.5	5.5
【9. 自粛ムードによる、経済的影響】			
1. 天皇の病氣(死去)だから、皆で我慢すべきだ。	肯定	0.0	0.0
2. 困ったことだが、やむを得ない。	肯定	14.7	35.6
3. とんでもない。政府は何等かの手を打つべきである。	否定	55.8	34.4
4. とんでもないことだ。こういう悪習を破るために、自分も含め、なにかしなければならぬ、と思う。	否定	14.1	9.8
5. 自分とは直接には関係のないことだと思う。	中間	6.7	15.3
【10. 天皇タブーは今の日本にあるか】			
1. 非常にあると思う。	否定	15.1	19.6
2. いくらかあると思う。	否定	50.9	51.5
3. ほとんどないと思う。	肯定	10.1	8.6
4. 全くないと思う。	肯定	0.6	0.0
5. わからない。	中間	23.2	20.2

	分類	'88.11	'89.1
【11. 天皇の地位】			
1. 天皇は日本国の元首である。	肯定	0.6	1.2
2. 日本国民統合の象徴だから、実質的に元首に同じ。	肯定	6.1	3.7
3. 天皇の国事行為には、外国の元首(大統領)が行うことが多く含まれ、実質的に元首に同じ。	肯定	2.5	4.9
4. 天皇は国政に関する機能を持たず元首ではない。	否定	39.9	42.1
5. 天皇が行う国事行為はすべて内閣の助言と承認により、為されるのだから、外国の元首(大統領)とは違う。	否定	34.4	31.1
6. わからない。	中間	16.6	17.1
【12. 天皇の戦争責任】			
1. 悪いのは、軍部の好戦派、天皇はむしろ犠牲者。	肯定	10.8	12.9
2. 天皇はむしろ平和主義者であり、戦争責任はない。	肯定	1.4	1.9
3. 日本人全体に責任、天皇ばかりを責められない。	肯定	43.2	38.1
4. 天皇にも戦争責任はあるが、いま問題にすべきではない。	中間	14.9	12.3
5. 当然、戦争責任はある。	否定	23.0	26.5
6. わからない。	中間	6.8	8.4
【13. 天皇の、国の政治や経済への影響力】			
1. ほとんど何の力も影響力も持っていない。	肯定	33.7	25.0
2. 影の存在として、政治・経済にかなりの影響力。	中間	9.4	11.6
3. 経済にはないが、政治にはそれなりの影響力。	中間	9.4	11.6
4. 利用しようとするものがいれば、大きな影響力を持つ。	否定	35.0	42.7
5. わからない。	中間	8.7	9.1
6. その他	中間	3.7	0.0
【14. 今後の天皇制の在り方】			
1. 天皇を現在よりも、もっと権威あるものにする。	肯定	0.0	0.0
2. 現在ぐらいの政治的な影響力と権威がよい。	肯定	27.3	26.4
3. 憲法で決めている象徴天皇の立場と地位を厳密に守る。	否定	26.1	35.6
4. 形式的な象徴として、国事行為ももっと限定がよい。	否定	18.0	14.1
5. 天皇制は廃止した方がよい。	否定	16.8	11.0
6. わからない。	中間	11.8	12.9
【15. 年号は、これからもあった方がよいか】			
1. あったほうがよい。	肯定	39.6	39.0
2. あってもよいが、べつになくてもよい。	中間	36.6	36.6
3. あってもよいが、公文書に義務づけるのは反対。	否定	8.5	12.2
4. 西暦があればよいので、廃止した方がよい。	否定	9.1	9.8
5. わからない。	中間	3.7	1.8
6. その他	中間	2.4	0.6

天皇・天皇制についての意識調査

のであったが、この変化はマスコミ情報によるというよりむしろ、「拝礼や自粛」の原因としての天皇の病気という事態と天皇の死去という事態の違いによるものと言えそうである。なお、統計的に有意とは言えないが、「13. 天皇の、国の政治や経済への影響力」に関し、“ほとんどどの影響力も持っていない”が9%減り逆に“利用しようとするものがいれば、大きな影響力を持つ”が8%増えた。これはマスコミの逆の効果といえるかも知れない。

②表5は、「昭和天皇、現天皇、現皇太子についてのイメージ」の変化を見たものであ

る。昭和天皇ではプラス・イメージの項目が大きく増えマイナス・イメージのものが減っている。特に“敬愛・親しみ”の増加が目立つ。現天皇でも、プラス・イメージが増えマイナス・イメージの減が見られるが、特徴的なのは“かわいそうな人”と“無関心・無関係”の減ったことである。しかし、現皇太子では第1回と第2回にほとんど変化は見られなかった。選択肢9×調査時点2のカイ二乗検定の結果、昭和天皇では1%水準の、現天皇では2.5%水準の有意差が見られ、現皇太子では第1回と第2回に有意差は見られなかった。

表5. 昭和天皇・現天皇・現皇太子についてのイメージ (複数選択%) N=164

	昭和天皇		現天皇		現皇太子	
	'88.11	'89.1	'88.11	'89.1	'88.11	'89.1
1. 敬愛を感じている.	6.5	14.9	3.6	4.2	4.7	3.0
2. 親しみを感じている.	15.5	28.0	10.1	20.8	13.0	17.2
3. かわいいおじいさん (おじいさん, 人)	23.8	29.2	10.1	8.3	4.7	1.8
4. あこがれを感じている.	0.0	1.2	0.0	0.0	1.2	1.2
9. かわいそうな人という感じがする.	53.0	61.3	45.2	29.2	31.4	20.1
5. 無関心、無関係である.	22.0	17.3	45.8	35.7	42.6	37.3
6. あまり良い感じではない.	11.3	5.4	16.7	8.9	20.1	19.5
7. きらいだ	7.1	3.6	5.4	4.2	11.2	9.5
8. こわい感じがする.	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	P < 0.01		P < 0.025		P < 0.50	

表6. 第1回調査から第2回調査への変化の方向 (%)

	肯定のまま	肯定の方向へ	中間のまま	否定方向へ	否定のまま	人数
2. 皇居前での祈禱礼拝	3.8	29.5	23.5	14.4	28.8	132
6. 天皇死去の哀悼番組	3.7	8.8	70.6	8.1	8.8	136
7. 祭りや行事の自粛	0.7	19.0	6.8	4.1	69.4	147
9. 自粛の経済的影響	11.9	33.6	4.9	4.9	44.7	143
10. 天皇タブー	2.5	14.6	10.1	20.3	52.5	158
11. 天皇の地位	1.8	15.3	8.0	14.1	60.7	163
12. 天皇の戦争責任	39.7	13.5	8.5	21.3	17.0	141
13. 天皇の影響力	18.8	12.3	18.8	23.4	26.6	154
14. 天皇制の在り方	16.9	15.6	4.4	14.4	48.7	160
15. 年号について	32.2	11.8	26.3	17.1	12.5	152
	プラスのまま	プラスの方向へ	中間のまま	マイナスの方向へ	マイナスのまま	人数
16. 昭和天皇のイメージ	33.6	32.2	7.4	10.1	16.8	149
17. 現天皇のイメージ	13.7	29.5	5.5	13.0	38.4	146
18. 現皇太子のイメージ	10.1	17.3	5.0	15.1	52.5	139

表7. 肯定・否定への変化とTV・ラジオの視聴 (%)

	ずっと、 長時間視聴	7日は視聴	番組を 選んで視聴	始めだけ・ ほとんど 視聴せず	人 数	
2. 皇居前での祈禱礼拝	肯定へ	28.2	17.9	5.1	48.7	39
	否定へ	21.0	15.8	0.0	63.2	19
6. 天皇死去の哀悼番組	肯定へ	0.0	33.3	33.3	33.4	12
	否定へ	36.4	9.1	0.0	54.6	11
7. 祭りや行事の自粛	肯定へ	17.8	25.0	10.7	46.4	28
	否定へ	50.0	16.7	16.7	16.7	6
9. 自粛の経済的影響	肯定へ					
	否定へ					
10. 天皇タブー	肯定へ	39.1	13.3	4.3	43.5	23
	否定へ	21.9	34.4	6.3	37.5	32
11. 天皇の地位	肯定へ	32.0	12.0	8.0	48.0	25
	否定へ	13.0	21.7	8.7	56.5	23
12. 天皇の戦争責任	肯定へ	36.9	21.1	10.5	31.6	19
	否定へ	20.0	13.3	6.7	60.0	30
13. 天皇の影響力	肯定へ	26.3	26.3	15.8	31.6	19
	否定へ	13.9	11.1	13.9	61.1	36
14. 天皇制の在り方	肯定へ	20.0	20.0	4.0	56.0	25
	否定へ	26.1	8.7	13.0	52.2	23
15. 年号について	肯定へ	38.9	11.1	4.6	44.4	18
	否定へ	26.9	3.8	11.5	57.7	26
16. 昭和天皇のイメージ	肯定へ	18.8	25.0	8.3	47.9	48
	否定へ	26.7	0.0	33.3	40.0	15
17. 現天皇のイメージ	肯定へ	23.2	24.6	7.0	44.2	43
	否定へ	10.5	15.3	21.1	52.6	19
18. 現皇太子のイメージ	肯定へ	16.7	20.8	12.5	50.0	24
	否定へ	33.3	14.3	19.0	33.3	21
	全 体	23.8	15.9	11.6	48.8	164

③表6は、各質問の回答肢を、内容ないし結果として天皇または天皇制を肯定するものと否定するものに分類し、変化を、1) 肯定のまま、2) 肯定の方向への変化、3) 中間(わからない・肯定否定不明など)のまま、4) 否定の方向への変化、および 5) 否定のまま、に分け比較したものである。表4、5では結果としての変化を知ることができたが、ここでは、変化の内容を知ることができる。まず明らかなことは、表4、5ではほとんど変化の見られなかった項目でも、肯定方向と否定方向を合わせると、どの項目でも30%以上の者が意見を変化させていることであ

る。この間に学生達がマスコミ情報を含めさまざまな影響を受けたことが分かる。

④表7は、変化の方向とTV・ラジオの視聴との関係を見たものである。ここでは、「天皇の地位」や「戦争責任」では否定方向より肯定方向の者が「長時間視聴」の率が高くTV・ラジオの影響があったように見えるが、「昭和天皇・現皇太子のイメージ」では否定方向の者の方が「長時間視聴」の率が高い。また、「天皇の地位」「戦争責任」や、「天皇の影響力」では否定方向の者の大多数が「ほとんど視聴せず」の者である。意見の変化が単純に視聴の関数でないことが分かる。